

## 平成30年8月19日(日)樹木診断会 報告

場所: 稲毛海岸3丁目団地管理組合

住所: 美浜区稻毛海岸3-3

5階建て27棟、768戸、築年:1968年(昭和43年) 築50年

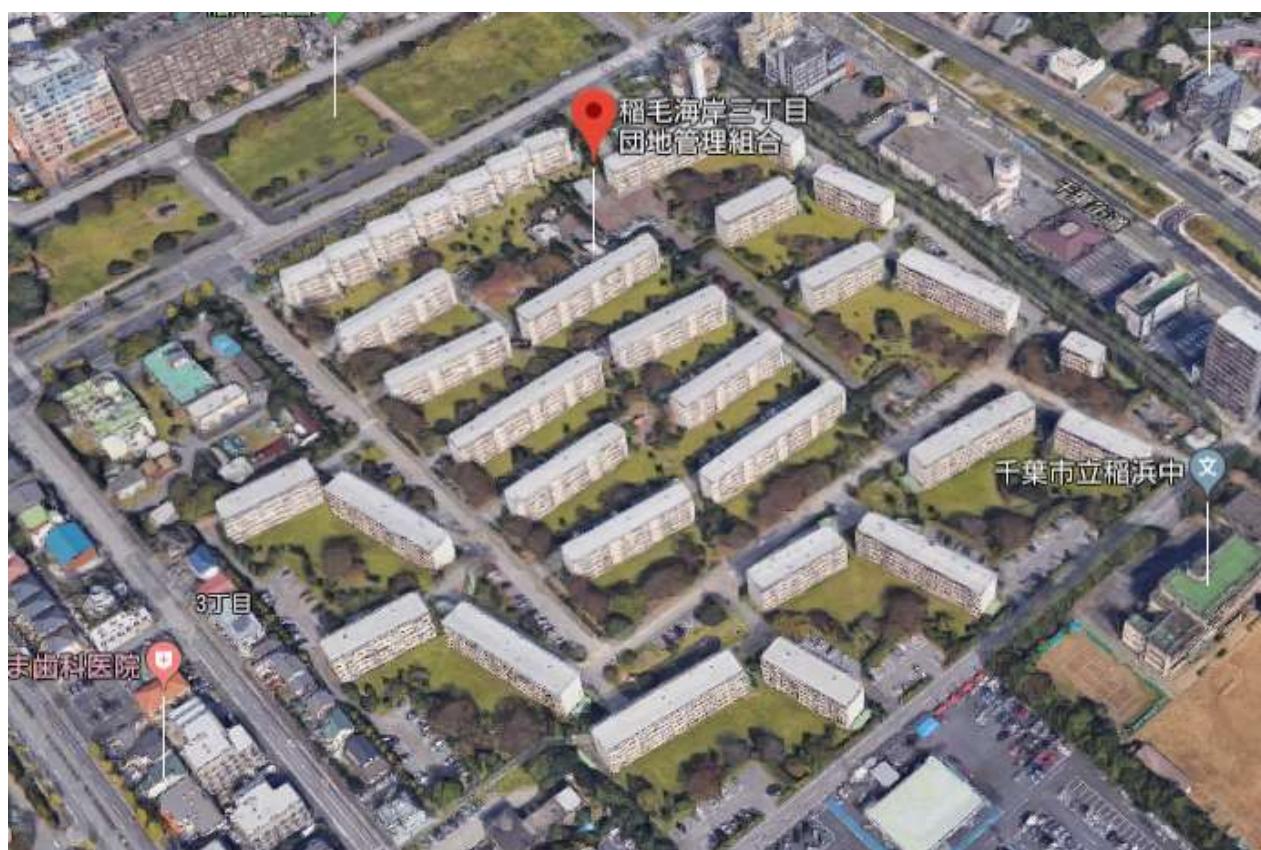
「稻毛海岸3丁目住宅管理組合緑化協定」(協定番号104番)

希望するアドバイス内容:

敷地が広く歴史ある団地で緑も豊かな環境ですが、特に桜(ソメイヨシノ)66本をメインに

(1)病害虫の有無、(2)土壤条件、(3)キノコ被害、(4)根と幹の普及、(5)枯れ枝の有無、(6)総合レベル、を診断しアドバイスいただきたい。

事前に質問事項が提出されたので、回答と事前説明書を用意して樹木診断をしていただいた。



集会室での質疑応答後、全体を診て、集会室にて総括していただいた。





敷地が広く、芝生の手入れもよく緑豊かな環境



キノコ被害や、幹の枯れ状態など診ていただいた。

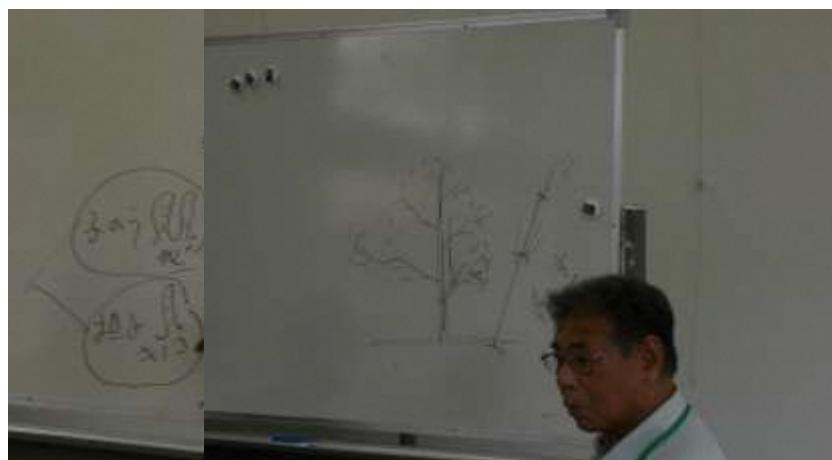




↑  
枝の切断位置が、よろしくないので枝枯れ発生。



↑  
トウネズミモチ



ご参考に、「事前質問／回答」と「事前説明書」を添付

## 平成30年度樹木診断会「稻毛海岸3丁目団地管理組合」事前質問／回答

### ☆ソメイヨシノ関連質問事項

\*当団地のソメイヨシノも樹齢40年を越え老木の域にいり、木によっては太い枝にキノコが発生している枯れ枝が見受けられるが、この枝を切り取ることにより、木の負担の軽減になり延命につながるのでしょうか？

落下による危険も考えられるので、できればこういった大小の枯れ枝を切り落としたいと考えていますが大丈夫でしょうか？

回答：切除すべきです。

一方、枯れた小枝もありますが、落下してもさほど危険性はないと思われるので、これについては放置しようと思っていますが、それでよろしいでしょうか？

回答：そう思います。

\*弱った桜（ソメイヨシノ）再生のため、東京の台東区では、太い枝を切り落として（強剪定？）新しい枝を出すという再生法を実施していると、新聞記事にありましたが、これは正しいやり方でしょうか？

回答：正しい方法です。弘前の桜はリンゴの剪定法を取り入れています。

\*桜は害虫では枯れないが、むしろ腐朽菌の感染により枯れると聞きましたが、腐朽菌が入り込んでいる箇所の手入れというか対処方法は？

また、腐朽菌に感染すると、そこにキノコが発生するようですが、この場合も枝ごと切り落とすのが最善の方法でしょうか？

回答：ケースバイケースですので、現地にて確認にて。

\*今後ソメイヨシノがさらに老木化して弱った場合、土壤改良などでの再生も可能でしょうか？

回答：可能と回答しますが、ケースにより必ずしも再生できるとは限りません。

\*当団地のソメイヨシノの中には至近距離での列植で、枝と枝がぶつかっているせいか、これらの木の先端の小枝の枯れが目立ちますが、やはり間引きした方が良いでしょうか？

回答：ソメイヨシノはクローンですのでエチレンが働き、枝が入り組み合い光合成量が減少し枯れ枝を増やしますので、適切な空間が必要です。

また、これらの桜の場所が公園もあるので、今後踏み固められないように囲いなどして保護する必要があるでしょうか？

回答：理想ではありますが広範囲となりますので、無理があります。

以上

## 平成30年度樹木診断会「稻毛海岸3丁目団地管理組合」事前説明書

ソメイヨシノとは、大島桜と江戸彼岸桜の交配種である。染井は、発見場所で、吉野は桜の代名詞である。吉野桜は山桜で森林のギャップ（老木枯死跡「ロウボクコシアト」の窪地）に生じた実験苗で長寿だが、染井吉野は接木、挿木繁殖で本来短命なうえ、悪環境地への人為植栽なので短命である。

### 1. 病害虫

サクラは非常に多くの病虫害が発生するが、一般的な病虫害としては、以下がある。

天狗巣病：タフリナ菌が原因で小枝が異常繁殖、放置で枯れや不開花状態になる。

→対策：切除焼却する。

桜類斑点病：8月に入って葉が黄化早期落葉する。

→対策：一般的には放置するが、予防薬を散布する。

食葉性害虫：モンクロシャチホコなど多種 →対策：早期に殺虫剤散布

穿孔性害虫：クビアカツヤカミキリなど多種 →対策：早期に殺虫剤注入

吸汁性昆虫：カイガラムシ、アブラムシ多種 →対策：早期に殺虫剤散布

### 2. 土壤条件

良い土壤とは保水性、排水性、通気性に優れた土壤。悪い土壤とは、以下。

「固結した土壤」土は単粒化し保水、排水、通気性を失う。

「過排水土壤」保水性がなく梢端枯れから全身枯れにまで至る場合がある。

「薄い土壤層」地下水が高く表層土が少ないので大木を養う土量不足。

→対策：通気管の設置や土壤改良剤の混入などを行う。

### 3. キノコ被害

剪定や損傷部から腐朽菌である各種のキノコ菌が侵入し腐朽する。キノコは担子菌で枯れ木や枯れ枝を分解する貴重な菌であるが、生木をも分解する菌もあり侵入すると局部除去だけでは済まなくなる場合が多い。

### 4. 根と幹の腐朽

原因の大部分は腐朽菌であり担子菌が樹体内に入ることによりキノコが発生し腐朽する。診断は樹木医による非破壊検査が必要だが、簡易的には目視、打診、鋼棒検査で診断する。

根株腐朽：根やルートカラー（根張り部）が踏圧や草払い機などにより損傷を受け担子菌が侵入し腐朽する。極めて重要な部分の腐朽で突然倒れることがあり、数年前に三原市で主婦が死亡する事故があったのも根株腐朽が原因であった。

根株腐朽は危険であるが幹を搖らすといった原始的な方法である程度発見も可能である。

幹、枝腐朽：根株腐朽と違い目視で診断が可能である。原因是損害、切断位置の誤り、胴枯れ病などである。

### 5. 枯れ枝の有無

落葉樹の落葉期を除き、着葉状態で判断可能なので、チェックリストで対処しておくことが大切である。

### 6. 総合レベル

簡易検査にて判断（診断）する。

以上